NPO 法人 大阪市地域福祉施設協議会

Daichikyo News

大地協ニュース

大地協ニュース復刊 第 18 号

発行元：NPO 法人 大阪市地域福祉施設協議会
企画委員会《 広報宣伝部 》
発行日：2023 年 3 月 第 18 号

担当窓口：望之門保育園 佐伯（さえき） 剛（たけし）
TEL 6651－7741
Fax 6652－8841

大地協の最新☆情報は右記 ➔
QR コードをご覧ください。

大地協ニュースへのご感想・記事テーマリクエストなど
上記担当窓口まで皆様のお声を頂けましたら幸いです。

新年を愛染橋保育園で迎えて

私は愛染橋保育園のある浪速区日本橋東が生まれ育った土地で、木造の市営住宅で中学校まで暮らしていました。まだ「軍艦アパート」があった時代で、軍艦アパートに住んでいる友だちと軍艦アパートの中でよく遊びました。

縁あって令和 3 年 4 月から歴史ある愛染園愛染橋保育園並びに愛染橋児童館の施設長となりましたが、60 歳を超えて生まれ育った土地で新たな仕事を始めることになるとは夢にも思っていませんでしたので、こうして愛染橋保育園で新たな年を迎え改めて考えてみると、不思議な縁だなあとつくづく感じています。

私自身はキャリアの中で児童福祉の経験が全くないので、自分のような素人が施設長としてやっていけるのか、自問自答を繰り返しずいぶん迷いましたが、自分なりのやり方・考え方で精一杯やっていけば乗り越えられることを信じて決断し、子どもたちと一緒に日々施設運営を行っています。

日頃心がけているのは、子どもたちはいろんな個性を持った存在であり、その個性に従って様々な行動を行いますので、その行動だけを短絡的に捉えるのではなく、その背景にある家族関係も見つめながら、子どもたちと話をしながら一緒に楽しく過ごしてい行きたいと思っています。

なかには事務所に来ることが楽しくて仕方がない子どももいて、いつも事務所で過ごしていますが、その時も事務所に来ることが良くないことと一方的に決めつけるのではなく、こどもの気持ちを尊重して時間を区切って過ごせるように配慮しています。

子どもたちが楽しく過ごすには地域の方々の協力も不可欠ですので、地域の方々との関わりも大事にしていきたいと思っています。同一法人内にある高齢者施設入所者との交流もこれまで行ってきました。今はコロナの影響で実施できていませんが、新型コロナ感染症が 5 類感染症となった場合、復活する必要があると思っています。また、近隣の公的な広場の管理者がいないため、広場の利用ができなくなっているため、愛染橋保育園が広場の管理を行うことを提案し、地域の方々と一緒になって管理運営組織を立ち上げ、保育園もその一員となり管理を行っていく方向で検討しており、将来的には広場の管理だけでなくこの管理運営組織をきっかけにして、様々な取り組みを地域の方々と行っていけるきっかけにしたいと、新年を迎えて改めて思っています。

社会福祉法人 石井記念愛染園
愛染園愛染橋保育園・児童館
施設長　柊 武男

第23回自然体験施設応援バザー

みんなで笑顔になった大地協バザー!!

久しぶりに“大地協バザー”の開催を聞いた時は『やっとできるんだ』と思ったと同時に『分散？できる？』と思いました。そして園内でもまだ行事の開催を見合わせてる中でのことだったので困惑しました。そして、大地協バザーはもとより園内の行事も経験したことのない職員が多いことに気づき、そこから思案することになりました。

やまとではコロナ前の夏に毎年納涼会と題して、職員が模擬店を行い子ども達と保護者が一緒に楽しんで頂く行事を行っていたので、バザーと掛け合わせることにしました。まず職員からアンケートを集め模擬店の内容を決めました。【あそびブース】かたぬき、スクラッチ、お面作り、コイン落とし、親子で記念品作り、お菓子すくい、わなげ【飲食ブース】チュロス、からあげ、焼きそば、ブロックベーコンの炭火焼き、そして【イベント】として“腕相撲大会”を行うことになりました。まず職員代表を決めるため男女別、右利き、左利きでの出場者を決めました。職員の対決は職員会議で行いました（やまとのインスタグラムにその模様が投稿されています。よかったら見てください）が思いのほか盛り上がりました。年齢、先輩後輩関係なく白熱の戦いが見られました。コロナで笑いあうことが少なくなっていることを感じました。

当日は保護者を交えての対決を行いましたが、またこれも大いに盛り上がり楽しい会になりました。賞状をもらわれた方は満面の笑みでの写真を園に飾っています。今回のバザーは初めてのことが多く、保護者の来場は２部制としましたが、大きな問題もなく、子ども達や保護者もとても喜んで帰って頂きました。大地協バザーは他施設と一緒にわいわい楽しく行う行事なので分散は少し残念な思いはありましたが、いろいろな準備を通して、コロナでできなかった行事の再認識ができ、そしてみんなが一つになって行うことは楽しく笑顔になれると改めて感じることができました。

社会福祉法人 大和福祉会

やまと保育園子ども家　管理者　三谷 節子

幸分

～今，私たちにできること～

今回の**大地協バザー**は、これまでの開催目標を見直し、「①幸せにつながる SDGs②支えとなる力③共生（とも）にあゆむ大地協」として取り組みました。開催方法は、SNS を活用し、**セツルの魅力**や**加盟施設の取り組み**を広く知っていただくこと、また、バザー会場を**分散**して感染対策に取り組むこと、この 2 点が新しい方法でした。SNS に関しては、インスタグラムで写真や動画により楽しい情報を伝え、喜んでいただくことができました。施設紹介は、それぞれの施設が趣向を凝らして投稿しくださり、とても興味深い内容でした。すべての加盟施設の投稿があればもっと**大地協**のことを知っていただけたのではないかと思います。それが残念ではありましたが、時代に合った方法で可能性が見い出せたように思います。バザー会場分散型については、感染症が流行し辞退する施設があったものの、別会場では無事に開催することができ、複数の開催地を設けて良かったと思いました。一カ所参集型に比べると、施設間また職員間の“つながり”については、課題が残りますが、コロナ禍で行事が延期や縮小になることが多いなか、大地協バザーの開催は、子どもも大人も**笑顔になれたひとときであったことを実感**しています。

バザー当日は、それぞれの会場の様子を写真でインスタグラムにアップし、同時開催であるという意気込みを共有できたのではないでしょうか！今回は名称が 「 幸 分 ～今、私たちにできること～ 」とし、育徳園の創設者である早川徳次翁が大切にした言葉から決めました。世界中が今、危機的状況にあり、今、私たちにできることは何か？をこのバザーを通して考える機会になればと思いました。SDGs について考えることが、その一つであり、バザー当日身近にできることは何かを来場者に書き出していただきました。たくさんの意見を伺い、まだまだできることはある！！と確信しました。バザーを終えても、引き続き SDGs については考えていきたいと思います。

たくさんの方々の“力”と“ほんの少しの思いやり”でバザーが実現し、感謝の気持ちでいっぱいです。今回のバザーは、大地協の**新たな一歩**になった気がしています。子どもたちの**自然体験の充実**を願い、今回の反省を次回にしっかりと**つなげて**いきます。

社会福祉法人 育徳園

育徳園保育所　　森井 利枝

第27回全国地域福祉施設研修会に参加して

地域福祉と災害について

第27回全国地域福祉施設研修会に参加、第6分科会で「地域福祉と災害について～支援の現場から」というテーマで、私は2016年熊本地震と、2020年7月豪雨災害において避難所運営を主に災害支援をさせていただきました。今回発題者として声をかけていただいたのは、災害などの非常時には常時の地域社会の課題が顕在化するということ、地域福祉の活動が常時から必要なのだ、ということを支援経験者のリアルな体験談を通して、自分事として学んで欲しい、というねらいがあったと思います。

第6分科会の発題者には、2019年長野県台風19号の洪水水害にあった賛育会豊野事業所の職員である湯本さん、中嶌さんと、様々な災害支援経験があり、支援者の支援について見識がある興望館の大江さん（ＹＭＣＡの先輩）が登壇されました。熊本地震以降、特につながりのある方々との再会ともなり、会場でも色々と記憶がよみがえる研修会でもありました。

私は民間団体として避難所を運営させていただくという貴重な経験を2回させていただきました。大規模災害では、避難所運営はプロや経験ある民間団体が避難所運営など担うことで、地域行政の負担を軽減し復旧復興を早めると考えています。災害時には自助共助と言われていますが、高齢時代、地域のつながりが希薄で、住民がリーダーとして力を発揮しづらい地域にとっては、自助共助自体に大きな課題があります。一方で災害が多い日本で、民間の災害支援団体はボランティアの概念が強く、プロとして自立している団体は一部であることが現状です。今回の研修に参加して地域福祉に取り組む施設が多くある事を知りました。私たちＹＭＣＡもそうですが、地域に根差した活動を通して、地域コミュニティの形成に寄与している団体の存在は、大きな希望だと思いました。研修会で知り合い、全国に非常時は支え合う、顔の見える関係団体があることを認識する良い機会になっていると思います。出会いを大切に、互いに地域の皆さんに愛される施設団体として今後も切磋琢磨できることを祈っています。起こっては欲しくないですが、非常時はお互いを頼っていきましょう。

公益財団法人熊本ＹＭＣＡ　丸目 陽子

「福祉」と「アート」の結びつき

全国福祉施設研修会の第１分科会「セツルメントと地域におけるアート活動」を担当させていただきました一般社団法人藝との青木彬と申します。

研修会で印象的だったことが２つあります。１つ目は分科会でのグループディスカッションの中で出てきた「アートって何だろうと思って参加したら、アートが何だかもっとわからなくなった」という感想でした。「アート」とは答えの出ないこと、わからないことに直面しても、答えを急がずに考え続けたり、逡巡するための技術のひとつだと思うのです。だから分科会が答えを出す場ではなく、問いを深めるきっかけになったことこそ、アートの力のように感じました。

２つ目はパネルディスカッションの中で、「表現」という言葉を使って話されていたグループホームでの生活支援のエピソードです。言葉での伝達が難しい入居者との間で行われる身振りや道具を使ったコミュニケーションを、「表現」と捉えられたそのお話は「福祉とアート」の繋がりをまさに言い当てているように思えたのです。

「表現」とは特異的な内面の表出ではなく、世界との関わり方それ自体でもあります。だから目の前のあなたと関わりたいという思いやりがカタチとなった支援のあり方も「表現」のひとつでしょう。知人のアーティストで支援職をしている人は「問題行動と言われてしまうようなこともその人の表現として受け止めると、否定するよりも『どうしてだろう？』と寄り添う隙間を見つけられる」とも話していました。「表現」とはそうやって人と人を繋ぐクッションになることができるものなのです。そして、そんな誰もが持ち得る「表現」を先鋭化し、記録・検証してきたものが「アート」の歴史です。だから「福祉」にも「アート」にも、他者を思う想像力と、それをカタチにする創造力が宿っていると思うのです。今回研修会に参加させていただき、そんな両者の結びつきを改めて強く感じることができました。

右の写真は筆者が社会福祉法人興望館と協働して開催した展覧会「共に在るところから／With People, Not For People」で制作したアーティスト碓井ゆいによる作品。（撮影：加藤甫）

主催：東京都、公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京、

「隅田川 森羅万象 墨に夢」実行委員会、一般社団法人藝と

共催：墨田区、社会福祉法人 興望館　協賛：株式会社東京鋲兼、東武鉄道株式会社

一般社団法人藝と　青木 彬

第27回全国地域福祉施設研修会報告

『ともにたがやす』仲間との再会

去る2023年2月18日～19日に、東京都墨田区のKFCホールにおいて、第27回全国地域福祉施設研修会が開催されました。実に３年ぶりの集合とオンラインのハイブリット開催となり、開催地の東京はもちろん、大阪・名古屋からも大勢の参加者があり、延べ３１９名（１日目１８５名、２日目１３４名）名の参加となりました。

初日は、山口稔先生の「地域福祉の未来にむけて」と題した基調講演から始まり、開催地である墨田区の下町文化を交えたお話は、楽しい学びのひと時でした。

その次の分科会は６つのテーマに分かれて、すべての分科会でオンラインと集合のハイブリット開催の下、それぞれのテーマに併せた発題やグループ協議などが行われ、盛り上がりました。

さらに初日の夜は、有志での交流会も開催されましたが、なんと 70 名を超える参加があり、熱気に満ちあふれるなか、地域福祉やそれぞれの取り組みなど、あちこちで語り合っていました。

２日目は、阿部志郎名誉会長のビデオメッセージから始まり、会場の皆さんが一気に引き込まれる姿は圧巻でした。

その後のパネルディスカッションは、がらっと様子が変わり、「福点」と題した笑点風の雰囲気の中、３人の登壇者の実践報告や、会場も巻き込んで、初日の各分科会の報告を交えたりと、実践からの学びを得ながら、大会を振り返ったりする時間となりました。

最後は、岸川洋治会長のまとめで、この２日間の意義をまとめていただき、閉会の挨拶で、東京の野原健治副会長から東海の谷川修事務局長に全国研修会のバトンが渡され、盛況の中、第２７回全国研修会はお開きとなりました。

今回の全国研修会は、東地協としても、若手（といっても、まぁまぁの年齢ではありますが…）を中心としたメンバーでの準備となりました。服部先生や野原先生をひやひやさせたことは間違いありませんが、アドバイスをしながらも辛抱強く見守ってくださり、分科会のテーマ設定から、福点のチャレンジ、全分科会を含めたオールハイブリット開催の実現など、たくさんの挑戦をさせていただきました。

私自身も「どうかうまくいきますように！」と祈りながら当日を迎えましたが、ふたを開けてみれば、多くの東地協スタッフの輝きに魅せられる機会となり、こんなにも素敵な仲間たちがいたのだと、目が覚める思いでした。

そんな思いもかけない機会を与えられただけにとどまらず、同じ志をもって、日々の実践に労苦する仲間たちと 3 年ぶりに会って語り合えたことに、心から感謝したいと思います。準備した皆さん、参加した皆さん、本当にありがとうございました。

グループ討議で盛り上がる分科会

楽しく発表・共有タイム「福点」

社会福祉法人　賛育会

賛育会病院 担当部長　遠矢 充宏

みんなで資料作りも久しぶり！

福点メンバー

熱気あふれる交流会

会場は満員御礼

墨田区長も
駆けつけてくれました